



平成22年2月22日

## 卓話 『両陛下にお仕えして』

侍従職御用掛・前侍従長

渡辺 允 様



天皇陛下は若い時から運転免許を持っておられて、軽井沢や那須で運転しておられたようです。その運転は徹底的な法令順守。ある日、御用邸からご自分で車に乗って出ようとして、ちょっと出たところで急に車を止めて、御用邸に走って戻ろうとされる。侍従さんが「どうなさいました」と言ったら、いや免許証忘れたからちょっと取って来るっておっしゃる。陛下の車には当然、警察の先導もついてたんですけど、侍従さんそのことが忘れられないで、私に話してくれました。

私は陛下のものの考え方がどういうふうにできておられるかを思うとき、いつも思い出す話があります。大分前、宮崎県に行幸啓され、西都原の古墳群に、陛下の大変なご先祖のお墓かも知れないそこへお参りにいらした。古墳群が見渡せる所で知事さんが、あの小屋の下に横穴式の古いお墓があって、40年ぐらい前、そこを地元の人が乗物で通ったら地面が陥没して、それで見つかったという説明をしたんです。そうしたら陛下が、そのときその人は怪我をしませんでしたかと質問された。私は古墳の方にばかり頭が行ってたし40年前の話ですから普通そういうふうには思わないと思うんですけど、そこでそれが真っ先に出るというのが、やっぱり天皇陛下ではないかと思った次第です。陛下は国民の幸せを願うということをよくおっしゃいます。それはやや抽象的な話に聞こえますけど、国民一人一人が皆、幸せであるようにいつも考えておられるということなんじゃないかと思うんです。

宮中祭祀のことですが、皇居には宮中三殿

とって天照大神をお祀りした賢所、皇族様の御霊が入っている皇霊殿、八百万の神が入っている神殿の三つお社が並んでいます。そこで陛下は潔斎をし、装束をつけ冠を被ってお参りされるわけで、



年に30回近くあります。何をお祈りされるかということ、結局、国が平穩に人々が幸せであるようにということなんですね。11月23日の新嘗祭には夜6時からと11時からの2回、2時間ずつ、このときは完全に2時間正座されて神様にお供え物をされ、お告げ文を読まれ、拝礼される。私も侍従長の時代、やっぱり装束に着替えて、外の廊下に正座していましたが、本当に大変でした。私がお仕えしてしばらく経ったころ、陛下が夕方、お仕事も終わって御所の居間でテレビなんか見ておられるとき、いつも床に正座しておられるので、一度、しびれないように練習していらっしゃるのかと伺ったことがあります。陛下は、まあそれもあるけれど、足がしびれるというのは一種の雑念で、神様に拝礼するとき澄み切った心で拝礼することが大事だと思うから、そういう雑念が入らないようにこれをやってるんだというご説明がありまして、私は自分の次元の低さを恥じたわけです。

とりとめないことですが、若干なりとも陛下のことが分かっていたいただければ幸せです。ありがとうございました。